

2020年をめざして！



昨年、山口七夕会も設立されてから15周年を祝うことができました。おかげさまで、現在、会員数も若い方や女性にも多くご入会いただき、過去最高の369名に達しています。

また、昨年夏に支部から本部に名称を改めた山口本部も幅広い年代の方々が集い、活発に活動されております。地元の期待も大きいようで、山口県内の会員数も122名に達しています。今後も山口市との連絡を密にし、「人と情報の交流」を行う中で、ふるさと山口市の発展に寄与することができれば幸いと思っています。山口市も平成の大合併で、新たに小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東地域に人の輪を広げています。私たちもこれらの地域の観光スポット探訪など交流を深める中で東京と山口を両極として活動の充実を図っていきたく考えています。

東京では、山口県東京営業本部のもとに公益財団法人防長倶楽部を中心に「山口県応援隊東京本部」が発足し、山口七夕会も同郷会や同窓会のネットワークに加わり、積極的に運営に協力しております。この秋には、山口七夕会の発祥の地である世田谷区で「三茶でやまぐち食べちゃろ祭り」が開催される予定ですので、会員みなさまと一緒にふるさと山口を味わう場となるよう楽しみにしております。

さて、今年7月の定時総会では、今後の5年間の中期計画として「山口七夕会2020ビジョン」を改訂して「チャレンジプラン2015 to 2020」を策定しました。

「継続は力！みなさんが主役です！」のサブタイトルを付けて、

1. 「ふるさと納税」の推進と財政基盤の確立！
2. 会員の拡大と組織の充実！
3. 「祭り」で交流、全国からアジアへ！

を三本柱に具体的な数値目標も決めました。

このように、山口市ゆかりの人々の会として東京で創立された山口七夕会は、故郷山口市と山口市ゆかりの方々との交流をさらに広げる時を迎えています。

また、私が理事長を務めております、一般財団法人産業遺産国民会議で進めてまいりました明治日本の産業革命遺産群が世界遺産となることが決まりました。このことは、非西洋国家であった当時の日本に西洋から初めて産業化の伝播が成功したことを示している事例として高く評価されたもので、大変喜ばしく思います。これにより、山口県に初めての世界遺産が誕生し、大河ドラマ「花燃ゆ」の効果と相まって、今、萩市は観光客の増加に沸いていると聞いています。この流れが萩市から広く山口県内に広がることにより、明治維新策源地である山口市の観光振興に貢献できれば幸いです。

このように私たちは、明治維新150年、東京オリンピック・パラリンピックをめざし、さらに仲間の輪を広げ、相互の親睦を図り、教養を高め、郷土山口市の発展に寄与する活動を展開して参ります。

会員みなさまのご支援、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成27年10月
山口七夕会 会長

ハネキッ

祝 辞



山口市長

渡 辺 純 忠

この度、山口七夕会の会報第2号を発行されますことにつきまして、心からお祝い申し上げます。

ふるさと山口の発展のために御尽力いただいております会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

山口七夕会は、平成11年の会発足以来、会員数が年々増加し、そのネットワークを拡大されておられますとともに、会員相互の交流を深め、活動の幅を広げておられます。市内外から本市を応援していただいております会員の皆様の御活躍につきまして、大変心強く感じているところでございます。また昨年は、会の設立から15周年の記念の年を迎えられました。これまでの会員の皆様の活動を振り返り、その御尽力に改めて敬意の念を抱いているところでございます。

さて、本年は、平成17年10月に山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の旧1市4町の合併により新山口市が誕生して10周年、平成22年1月の阿東町との合併より5周年の節目の年でございます。

こうした中、去る10月3日に山口市誕生10周年記念式典を開催いたし、山口七夕会の皆様の功績を称え、特別表彰をさせていただいたところでございます。

1市4町の合併以降、山口七夕会の会員の皆様をはじめ、市民の皆様の多大なる御支援のもと、行財政基盤の強化、一体感の醸成、新たな山口市の都市基盤づくりに取り組んでまいりました。

また、現在、我が国全体の問題であります人口減少、少子高齢化社会への対応が求められているところであり、これらの課題解決に向け、山口らしい子育て、教育環境の整備や若い人たちの働く場の創出など地方創生に取り組み、「山口市に住んでみたい、住み続けたい」と思っただけのような魅力ある都市づくりを進めてまいりたいと考えております。

さらに、本市の多彩な魅力を全国に発信し、交流人口を増加させる取組も進めてまいりたいと考えております。八木会長が代表理事を務めておられます一般財団法人産業遺産国民会議の皆様の御尽力による松下村塾等の世界遺産への登録や、平成30年には明治維新から150年の節目を迎えますことを絶好の機会といたしまして、本市のシティセールスを進め、観光客の誘致や地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、引き続き、本市のまちづくりへの御提言や本市の魅力の発信にお力添えを賜いますようお願い申し上げます。

終わりにあたりまして、今後とも会員の皆様の御支援と御協力を賜いますようお願い申し上げますとともに、山口七夕会のますますの御発展と会員の皆様の御健康、御多幸と御活躍をお祈り申し上げます。

祝 辞



山口市議会議長

原 真 也

この度、山口七夕会の会報第2号が発行されることにつきまして、心からお祝い申し上げます。

さて、私は7月に、東京で行われました定時総会に初めて参加をさせていただきましたが、八木会長様をはじめ、会員の皆様方が、ふるさと山口をこよなく愛され、故郷への思いを馳せるとともに、会員相互の交流を深めながら、本市の発展に寄与いただいておりますことに対し、深く感銘を受けたところであります。

定時総会での挨拶の中で、ふるさと山口市の夏の風物詩でもある「山口祇園まつり」や「山口七夕ちょうちんまつり」に触れるとともに、こうした素晴らしい歴史や文化、自然を守り、育てていくことが我々の使命であること、そしてその決意を述べさせていただきました。

また、地方が有するそれぞれの魅力や多様性を発揮しながら、将来にわたり活力ある社会を維持しようとする「地方創生の取組」が始まっており、本市におきましても少子化対策や定住促進に取り組むため、総合戦略の策定を進めておりまして、雇用の創出をはじめ、若い世代の結婚から出産・子育てへの支援など、地域の社会経済の活性化や好循環が図れるよう積極的な施策展開が必要であるとの考えをお示しさせていただきました。

こうした中、山口市議会におきましても、本市の歴史・文化・スポーツを通じて観光交流の推進を図り、本市の発展に寄与することを目的として、超党派で「山口市観光議員連盟」を本年3月に設置いたし、山口市の歴史・文化・スポーツを生かした交流や、他市との広域的な交流の推進を柱にした各種事業を展開していくこととしているところです。

今後とも、人・物・情報等が活発に行き交い、誰もが「住み続けたい」、「住んでよかった」と思えるようなまちづくりに向けて、まい進していく所存でございます。

会員の皆様方におかれましては、今後ともふるさと山口のまちづくりに対しまして、様々な御意見をいただくなど、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、山口七夕会のますますの御発展と会員の皆様のなお一層の御多幸、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



＝目 次＝

◇八木会長/挨拶-----1	・第2回「夢発見ウォーク」【山口】-----6
◇祝辞	・第21回会員交流会【東京】-----6
山口市長 渡辺純忠-----2	・第22回会員交流会【東京】-----7
山口市議会議員 原 真也-----3	・「第2回音楽祭輪 - RIN - 」【山口】-----7
◇目次・会員寄稿/山根和也-----4	◇会員寄稿 / 山仲秀子、橋本絹代-----8-12
◇活動の記録（平成26年3月～平成27年5月）	関 和貴、小口ゆい-----13-17
・第20回会員交流会【東京】-----5	相山俊哉、岡本暁彦-----18-19
・山口大学ホームカミングデー【山口】-----5	◇「チャレンジプラン2015 to 2020」-----20
	・会員数の推移/役員一覧表【東京】
	・編集後記-

会員寄稿

「いつかは萩往還を踏破したい」

歩くことが好きになって、最近あちこちによく出かける。きっかけは「腰部脊柱管狭窄症&ヘルニア」と診断され、2度の手術をうけたこと。幸運にも名医の執刀で術後の経過も良好。リハビリの日課としてウォーキングをすすめられた。最初は近くにお住いの久永さんらと恩田川沿いの遊歩道をよちよち歩きだった。回を重ねる度に、その次のコースに思いが募ってくる。

正月の七福神巡りから始まり、四季折々鎌倉の花探歩、三浦半島岬巡り、真鶴半島の美術館探歩や紅葉の箱根温泉へとエスカレートして、気付けば6年で33回。このウォーキング会の良いところは高望みしないこと、無理しないこと。そして必ず旨いものを食すこと。その場で次の日程を決めてしまうこと。みんな元気だからまだまだ続きそう！

さて、大山道を巡る歴史ウォーキング会にも別途参加した。赤坂御門から始まる旧大山道を伊勢原の大山阿夫利神社の頂上を目指すグループ。そしてついに昨年の5月、快晴の大山の山頂をめたく踏破することができた。

また、NHK 大河ドラマ『花燃ゆ』。吉田松陰が野山獄から江戸まで護送される〈東送〉編。覚悟の萩別離のシーンに出た『萩往還』を私も是非歩いてみたい。最後の涙松から佐々並、山口を通過して三田尻までの歴史的往還をウォーキング目標としたい。



＝赤坂見附の御門から旧大山道を山頂の大山阿夫利神社をめざし歩く。＝

山根 和也

(会員番号 No39 横浜市青葉区在住)

第20回会員交流会【東京】

平成26年3月2日(日)東海大学校友会館で33名の参加で開催しました。八木重二郎会長の挨拶に続き講演会を行いました。

◆講演:「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」◆講演内容:八木会長が理事長を務める一般公益財団法人産業遺産国民会議では、幕末から明治にかけての重工業を中心とする一連の産業遺産は日本の誇るべき宝であり、国家プロジェクトとして2015年の世界遺産登録に向けて動き出しています。



九州・山口と関連地域にある明治日本の産業革命遺産と世界遺産登録に向けての取り組みをお話いただきました。

◇講師:五十嵐誠氏(産業遺産国民会議/事務局長)



◆山口大学ホームカミングデーに参加◆

平成26年10月4日(土)【山口】

平成26年10月4日(土)、「山口大学ホームカミングデー」において山口七夕会企画による講演会及びブース展示が行われました。

山口七夕会による今回のイベントへの参加は、今年5月に八木重二郎会長が山口大学・岡学長訪問時に、山口大学創基200周年を来年に控え「地域と共に生きる山口大学」をめざす山口大学と、「郷土山口市への貢献・人と情報の交流」をめざす山口七夕会の連携の第一歩として実施が決まったものです。



講演会では松前了嗣会員による司会進行のもと、まず、児玉秀文山口七夕会山口本部長の開会挨拶が行われ、続いて「人と情報の交流 山口七夕会のめざすもの」と題した山縣正彦山口七夕会幹事長による講演が行われました。講演では山口七夕会の設立から現在、「山口七夕会2020ビジョン」に基づいた山口七夕会の今後の方向性や山口大学との連携などについて説明がありました。

その後、関和貴山口七夕会楽農部会長による「スローライフ in 徳佐 with 七夕会～肩の凝らない農的な生き方」と題した講演が行われました。関会員の千葉県からUターンしての帰農の経緯、山口七夕会楽農部会の取り組みや阿東徳佐での米作りから酒米作りなどについてお話がありました。



引き続き、中島和彦レノファ山口経営企画室長による「J3をめざすレノファ山口の今」と題した講演が行われました。地元サッカーチームによる地域との連携強化が地元の社会経済活性化にも大きく寄与することを説明され、レノファ山口への更なる支援拡大を求められました。



最後は入江幸江山口七夕会山口副本部長の挨拶が行われ、イベントに参加された方々へ今後の山口七夕会の活動へのご理解とご協力をお願いし閉会となりました。

ブース展示では、山縣正彦/山口七夕会幹事長の東京での活動「井の頭かいぼり」の取り組みが紹介され、あわせて山口七夕会の活動をPRするチラシの配布を行いました。

当日は山口七夕会関係者及び山口大学関係者、一般の市民の方など50名を超える参加があり、多くの方に山口七夕会の活動をPRする機会になったのではないかと思います。

(報告:山口本部事務局長 濱野文彦)

◆歴史を訪ねて1万歩！ 夢発見ウォーク◆

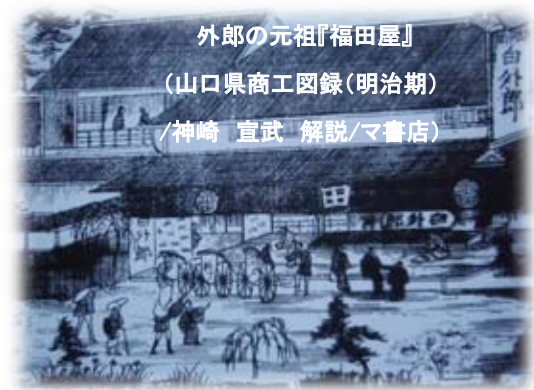
第2回 亀山・象頭山・白狐湯めぐりウォーキング

平成26年11月23日(日)【山口】

11月23日は30人を超す参加者と晴天に恵まれ快適なウォーキングとなりました。「いざ！出陣！！」の掛け声とともにスタートし、亀山公園を廻り、山口市民会館展示ホールで開催中の亀山スケッチ大会の入賞作品等を観て、象頭山ふもとにある外郎元祖福田屋で小休憩(外郎の接待)。湯田(井上公園)を目指し歩きました。

今回は井上薫侯遭難150年ということもあり、松前さんの語りも熱く、参加者は歩きながらの歴史学とウォーキングで体を鍛える一石二鳥の体感をしていただくことができました。福田百合子実行委員長も小学生に負けず劣らずの健脚でした。皆様お疲れさまでした。

(入江幸江/山口本部副本部長・記)



第21回会員交流会【東京】

平成26年12月7日(日)、東海大学校友会館で、35名の参加で開催しました。八木重二郎会長のあいさつに続き、講演会を行いました。



◇講演:「山口でビジネスをする意味と方法～山口で頑張る若い子を応援しよう！～」

◇講師:中司祉岐氏(㈱日報ステーション 代表取締役)

◇関係団体・会員活動報告 講演に続いて、先ず、会員で



もある防長倶楽部の村野事務局長から公益財団法人防長倶楽部の幅広い活動状況を報告いただきました。

続いて、アメリカ駐在から帰国された高木俊彦会員、お友達の窪田利恵子さんを同伴で

参加された土光洋子会員、山口から単身赴任で東京に来られた岡本暁彦会員から近況の報告をいただきました。

懇親会は、前会長の原野和夫顧問の乾杯の音頭でスタート！講演会講師の中司さんは、山口高校の同級生や山口出身の仕事の仲間を誘って参加いただき、若やいだ雰囲気が漂いました。



また、今回は会員の紹介や同伴での参加もあり、高木会員の紹介で参加された橋本耕明さん(山口高校79期)、武内衛子副会長の同伴者でシャンソン歌手の山口蘭子さん(かなめ会)からも参加に至った経緯や感想を話していただきました。



第 22 回会員交流会【東京】



平成 27 年 3 月 1 日(日)
東海大学校友会館で、43
名の参加で開催しました。

八木会長の挨拶の後、
恒例となった会員からの卓
話は、以下の 3 名の方々か

ら貴重な体験やお仕事についてのお話をいただきました。

○山仲秀子会員:「妻として母
としての海外駐在生活～アパ
ルトヘイト時代の南アフリカ共
和国、ケープタウンとラスパル
マスの日々～」

○白石奈美会員:「影絵と劇団
角笛』の活動」

○法人会員(株)村重酒造/代表
取締役社長/村重雅崇:「村重
酒造 今後の展望」

つづいて、山口県東京事務
所の村田太所長と防長俱樂部
の村野仁事務局長から近況報
告をいただきました。最後に幹
事長の山縣から昨年秋以降の
山口や東京での活動について
会務報告をしました。

懇親会は、石田順康副会長
の乾杯の音頭でスタート！俣野会員の紹介で参
加された京王ストア相談役の内藤雅浩氏から少子
高齢社会が進む中での消費動向や経済活動、また、
京王ストアで扱っておられる山口県産の食材
や近年人気の高い山口県の地酒の魅力などにつ
いて語っていただきました。



【山口】

平成 27 年 5 月 23 日(土)18 時より山口市大内御
堀「ポルシェセンター山口」にて開催されました。

当日の参加者は92名となり、山口本部における
事業の中でも最大規模のイベントとなりました。

NHK 山口放送局 丹友美氏の司会進行により、
まず、児玉本部長の開会挨拶が行われました。続
いてトロンボーン奏者 小野隆洋会員の演奏、バン
ドグループ「Silver fuchs」、「みつくすじゅうす」の演
奏、中野光次郎会員によるカリンバ演奏、西アフリ
カの太鼓(ジェンベ)と三味線奏者 一燈による津軽
三味線のジャムセッション、山本浩二氏によるリュ
ート演奏、橋本絹代音楽部会長によるピアノ演奏、
坂本哲也会員率いるグループ「BHW」によるバンド
演奏などで会場は大いに盛り上がりしました。最後
に入江副本部長兼事務局長による挨拶が行われ閉
会となりました。途中、東京よりお越しいただいた
山縣幹事長の挨拶もあり、産業革命遺産登録へ向
けたこれまでの取り組みの報告とともに、山口七夕
会の活動の PR がありました。

イベントは立食形式のパーティースタイルで進
められ、始終和やかな雰囲気包まれており、会
場には村重酒造様(法人会員)や金光酒造様ご協
力による日本酒試飲コーナーが設けられ、日本画
家/馬場良治氏の水墨画やポルシェなどの高級車
の展示も行われるなど、音楽だけでなく五感全体
を使って愉しめる内容となりました。

今回も昨年に引き続き「会員間の親睦を図り、更
なる輪を広げる」という事業目的のもと、3ヶ月前よ
り企画立案し役員一丸となって準備を進めて参
りました。当日は会員のみならず会員以外の方の参
加も多数あり、この交流会をきっかけに入会される
方もいらっしゃるなど、事業目的は十分に達成でき
たのではないかと思います。

(山口本部事務局長 濱野文彦/記)



アパルトヘイト時代の南アフリカ共和国、ケープタウンと スペイン領、カナリヤ諸島ラスパルマスの日々

会員No.363 山仲秀子

私は夫の2回の海外赴任に子ども3人と同行致しました。最初は南アフリカ共和国、ケープタウンに1978年から4年間、その後日本に3年居て、85年からスペイン領カナリヤ諸島ラスパルマスに3年間滞在しました。その間に体験した事、子育ての事をお話しできたらと存じます。

私は山口市平川で生まれ育ち、外国に関心がありませんでしたが、ある日大洋漁業勤務の夫が帰宅し「ケープタウンへ転勤だよ」と言いました。中国船、韓国船からの魚の買い付けです。魚に水をかけ凍らせ、その氷で重量が増えているか、とろ箱の底まで注文の魚が入っているかなどを監視するのも仕事です。

その日は、1977年王貞治さんが756本目のホームランを打った数日後の事でした。

生まれたばかりの三女をアフリカの南端までどうやって連れて行くかと思った瞬間、頭は真っ白になり、母乳が止まりました。

躊躇する私に上司が説得に来られました。

初めての海外が南アのケープタウンです。言葉は英語とアフリカンスです。当時は混血のカラードが一番多く、白人は20%と言われていました。私達日本人は名誉白人と言う事で白人住宅街に住み、白人のみのレストラン、プール、海岸へ行く事が出来ました。

ある日、次女が「お母さんは色が白いからいいね。」と言った事があります。まるでアンクルトム物語のようです。南アに於いて色白に生まれるのと色黒に生まれるのとでは大変な違いです。

アパルトヘイト(人種隔離政策)は1940年代後半に法制化され、国際社会から非難されながら91年まで続きました。すぐ近くのテーブルマウンテンの裏側の黒人住宅街は凄まじく、迷い込んだら恐ろしい様な所です。廃止3年後に黒人大統領、マンデラン氏が誕生しました。

私達が滞在していた時、マンデラン氏はケ-

ープタウン沖のロベン島に収監されていたように白人が強い力で統治していました。真っ青な海と空、海岸に漂流したゴミを黒人たちが掃除し、綺麗になった白い砂浜で日光浴出来るのは白人だけでした。私達親子はbeach parasolを持って砂遊びに行く事が出来ました。一年中雨は降らず、湿度が低く汗をかくこともなく、冬はカーデガンで間に合いました。



黒人たちは白人に対して手を出しませんがアジア人の私達には違いました。次女が下校途中に、また私が2歳の子どもと散歩の時、手を離れたすきに子どもが黒人に取り囲まれました。玄関先の置物が、裏に置いていたあのbeach parasolが無くなりました。夫が出張の時は通勤用の車が家の前に駐車したままになります。私は朝夕にその車を移動させ、夫が在宅かの様にしました。治安が悪い為、子どもを骨にして帰国させてはならないと言う思いが常にありました。日本人家族は7家族です。

「トイレで泣いている」「お風呂で」と奥様方が言っておられました。大森領事の奥様が「初めての海外赴任がケープタウンというのは厳しいですね」と慰めて下さいました。アフリカ最南端のあの様な遠い所にも領事館があり、私達日本人を見守って下さる、在り難いことです。

渡航は会社の都合で一年延び、長女は四年生、次女はぴかぴかの一年生、三女はまだ日本語が

しゃべれない乳児でした。この子達を連れて日本人学校のないケープへ転勤です。新座市立池田小学校へ転出の挨拶に行きました帰途、「この子達を日本人の子どもとしてどう育てたら



いいの」と涙が溢れました。母子共々不安一杯でパスポートに貼られた写真は暗く、不安な顔々でした。

家財道具がケープに着くまで実家で待機しました。その間に平川小学校から運動会の練習の音楽が聞こえてきました。

家族に見送られて小郡から出発しました。見送る方も心配だったようで、母が「今頃、どこの上を飛んでいるやら。」と言ったそうです。

成田空港から香港、アフリカ大陸東側インド洋上のシェーシェル島を経て、南アの経済都市ヨハネスブルグ、そこで乗換えケープタウン空港に到着しました。紙オムツを持って、3人の子どもを連れて26時間余りの旅でした。

子ども達の学校生活は直ぐに始まりました。カトリックのロレッタコンベントスクールと言う幼稚園、小中学校がある私立女子校です。日本人の子供さんが三人通っておられ心強く思いました。次女はa b c から学ぶ丁度良い学習年齢でしたが長女は授業内容が難しく大変のようでした。学業が至らなかった子供は留年です。終業式の日に進級する子供は名前を呼ばれ壇上で校長先生からご褒美を頂きました。

次女は名前を呼ばれ嬉しそうでしたが、長女は呼ばれませんでした。しかし、良く頑張ったと言う事で進級出来、ほっとしました。学芸会がありました。舞台の上の娘を「この前まで一言もしゃべれなかった子が」と感無量でした。

運動会は family day といい、家族も競技に参加し、昼食は事前に購入したチケットでバーベキューでした。ワインや飲み物は各自持参でした。子どもファッションショウと言う行事がありました。洋服屋さんが出場する子どもに似合う服を貸出し、それを着てモデルさんの様に舞台上で格好良く歩くのです。そのショウのチケットを発売し学校の運営資金に、またケーキセールでは各家庭で作ったケーキを学校から頂いた箱に詰め子供が持参しました。街の人たちはそれを買に行きこれも運営資金になりました。私は毎年、シュークリームを作りました。子供たちは学校、お友達、またそのご家族に大変お世話になりました。初年度は英語が喋れずお礼が言えませんでした、二年目にはどうか言う事が出来ました。

学校がテニスの対校試合の時の運転ボランティアを募りましたので、学校への感謝の積りで申し出ました。



日本から日本語を持って来なかった三女はなかなか日本語が話せず絵本を読み聞かせても理解出来ませんでした。小一で連れ出した次女も廊下、講堂などの学習語彙が解らず、海外子女教育財団から送られてくる通信教育をこなすのが大変でした。日本語があつての日本文化そして日本人です。「根なし草にはいけない」「日本の新聞位は読める子に」と毎晩、夏休みも冬休みもなく通信教育をやらせ財団へ送りました。次女の場合、ひらがな、かたかな、漢字、そして足し算、引き算、掛け算など

殆どの小学課程を教えました。中学生になりました長女の勉強は夫婦で頑張りました。少しでも日本の文字に親しむことが出来る様に絵本は勿論の事、小学校低学年用文学全集、中学生用の少年少女文学全集、中学生用百科事典集などを揃えました。「友達はいなし、テレビも面白くないし、本でも読むか」と言う読書でしたが後の日々に大変役に立ちました。ケーキ作りを教えました。作り方を読むこと、グラム、ccを理解することが勉強になりました。百人一首では私が下の句を詠み子どもが下の句を取りました。慣れてから上の句を詠みました。母親であり、日本人学校の先生のような毎日でした。

この様にして4年間を過ごしました。子供たちはすっかりケープタウンの子どもになり、姉妹の会話は英語になりました。



帰国する飛行機の中で次女が「おかあさん、日本の島が見えるよ」と嬉しそうに言いましたが日本を知らない5歳の三女は成田空港到着後から腹痛、ホテルで嘔吐です。日本は夏の暑さ、雨、湿度、蚊などの厳しい環境です。幼稚園生活などのストレスで泣き、涙と共にそのストレスを流す日々でした。

長女は中学校2年生、次女は小学校5年生です。練馬区役所に編入手続きに行きますと「4年間も日本人学校に行っていない子供さんはフリースクールに行ってください」と言われました。再度お願いに行き、中学校の担任岩間先生、小学校の担任佐藤先生が引き受けて下さいま

した。やがて中学生だった子が国際基督教大学高等学校生に、小学生だった子が中学生になりました。日本の生活になかなか慣れることが出来ない三女は「京子は髪の高い人が大嫌い」と言う日々でした。年齢相当の日本語力がないため、私は毎週図書館で家族全員の図書カードを使って沢山の絵本を借り、一冊でも気に入った本があれば本屋さんで求め何度も読んでやりました。子どもがドラえもんを読めた時は嬉しく全巻買いました。小学校では酷い成績でした。

帰国3年目にスペイン南方、アフリカの北西の大西洋上にあるスペイン領カナリヤ諸島ラスパルマスへの転勤の話が出ました。ここはヨーロッパの避寒地として有名な所です。夫はタコの買い付けでした。モリタニア産と言う表示はラスパルマスで水揚げです。「お父さんは年齢(とし)が一番多いでしょ。我慢して一人で行けばいいじゃない」と言う中学2年生の次女、「明子は一人では日本で留守番出来ない」と泣く高校2年生の長女、「私はスペインには絶対に行きません。」と作文に書いた小学2年生の三女、3人ともケープタウンで楽しく過ごしていたようでしたが子どもながらに苦勞をし、二度と渡航は嫌だったのでしょ。

それでも夫は赴任しました。子ども達は「スペイン語の国だけどアメリカンスクールへ行って、留学したつもりで英語を頑張ろう」と思い直したようでした。出国したのは御巢鷹山の飛行機事故の日でした。家財道具と一緒にテレビも送りましたが届いたその箱には木片が入っていました。玄間前に陰悪な少年集団がたむろしている事は再三です。夫が玄間前に車を止め、昼食をしている間に車のヘッドライトが片方盗まれました。ここも大変疲れるところです。

ラスパルマスでの学校選びはケープタウンがイギリス英語でしたのでブリティッシュスクールを希望し、高等部がない為長女だけアメリカンスクールになりました。ケープタウンの学校と同様に子どもひとり、ひとりを大事にし、

考える教育を進めていた様に思いました。学業が至らなかった子どもの留年、少人数制、算数は個別進度、小学校低学年でも広告や雑誌の切り抜きを利用してレポートにまとめる授業がありました。高校生は情報を取り、まとめ、タイプで活字にしました。学校は留年制度がある為か程良い緊張感がありました。



「やっぱり日本の高校を卒業したい」と長女はアメリカンスクールに 1 年間在学し高校 3 年 2 学期に帰国、復学し、1 人で社宅生活を始めました。次女も「日本の高等学校へ行きたい」と中学校 3 年 3 学期に帰国しました。中学生、高校生 2 人の生活です。ラスパルマス滞在の私は「どうしているかしら」と案じる日々でした。国際基督教大学高等学校を受験する妹の為に長女は付き添ってくれました。次女はその学生になり、長女は一般入試を受け慶応大学法学部の学生になりました。同じ社宅でお世話になりました高橋さんご夫妻に感謝しております。それから 1 年半後に私達は帰国し、小学校 5 年

生になりました三女は通信教育を続けたにも関わらず 2 年生の学力でした。英語、日本語、スペイン語の国々で過ごし無理ありません。色々ありましたが良く頑張りました。「お姉ちゃん達が通った国際基督教大学高等学校、国際基督教大学へ行きたい。」と思ひ続け、とうとうその大学院生となり、結婚式までその教会で挙げました。今は半導体研究所で知的財産の英語翻訳をしています。次女は国際基督教大学卒業後、東京銀行へ就職しました。海外向け銀行業務の音声は治子の英語でした。今は UBS (スイス銀行) に勤務しながらの共働きです。長女は日本興行銀行勤務後結婚し、今はロスアンジェルスに滞在しています。子ども達と海外子女教育財団の通信教育をしていることでしょう。



戦いがすんで日が暮れました。3 人の子ども達は英語と共に過ごしているようです。沢山の学校と出会い、色々な授業を垣間見、改めて学齢期の教育の在り方の大切さを痛感しております。

私達がケープタウンに滞在していました時、兄はナイジェリヤに 2 年 3 ヶ月、姉婿はチュニジアに 1 年滞在していました。兄妹 3 人がアフリカ大陸に居ました。

過ぎ去った日々が懐かしい今日この頃です。

私の今

会員No.554 橋本絹代

私は物心つくころからピアノを習い始め、小学から高校まで音楽クラブに所属していた。山口高校の吹奏楽部ではクラリネットだったが、時々音がひっくり返るので「キャラリネット」、また吹く格好をしているだけなので「クワエネット」などと言った。石井洋之助先生ご指導のもと全部員が結束してコンクール優勝のために毎日練習した。また私は先輩のピアノ伴奏も命じられて学生音楽コンクールにも出場した。部員の中には吹奏楽器で専門の道に進む人もいたが、私はピアノの方を選んだ。

現在、私はバッハの音楽を広める活動をしている。これまでの人生は東京、大阪、福岡、山口で沢山の生徒さんたちのレッスンに明け暮れていた。ヤマハ音楽教室講師、合唱団のピアノ伴奏、山口県学生音楽コンクールピアノ部門の審査委員などの経験を生かして、今私は全く新しいピアノ教授法「イコール式」を確立した。これによって難しさ故に敬遠されるバッハを容易に演奏できるようにした。ピアノの最も重要な作品の一つにバッハの《平均律クラヴィーア曲集》があるが、この全 48 曲をハ長調とイ短調に移調して弾き易くした。カワイ出版から出版した楽譜がどのような経路で外国にまで伝わったのか分からないが、英国クィーンズ大学の富田庸教授の目にとまり、「日本から発信する世界で初めての試み」と突然ご本人から激励の e メールが届いた。

富田教授はドイツヘンレ社の楽譜の校訂者であり、世界的なバッハ研究者である。そうこ

うするうちに春秋社の編集会議でも「イコール式」が認められるところとなり、『やわらかなバッハ』の出版が決まった。

春秋社は非常に専門的な音楽書を多く手掛けている出版社である。拙著の中身は、バッハの永遠性、調の自由性、絶対音感信仰の非音楽性など、真の音楽性を求める内容となっている。日本音楽学会会長の礒山雅先生など多くの専門家や音楽学生たちから拙著を読んで「共感した」「勉強になった」というメッセージが届いている。

私は山口で毎月 2 つのバッハの勉強会を主催している。一つは拙著『やわらかなバッハ』を読みながらバッハの音楽を鑑賞する“バッハ輪読会”である。この会は初めてバッハの音楽を聴く方から、音楽書に精通している方まで、様々な分野の方が自由な意見を交換する楽しい空間である。もう一つは「イコール式」で合奏する“バッハ輪奏会”である。音大ピアノ科出身の方から、昔バイエルを少々やったという方までが皆一緒になって《平均律クラヴィーア曲集》《フーガの技法》《音楽の捧げもの》などの合奏を楽しむ。

そして年に 1 度はバッハ礼讃音楽会を開催している。愛する故郷の山口で七夕会の方たちと共に山口を元気にしていきたい。バッハ伝道者として固定観念に捉われない新しいバッハを山口から発信していきたいと思う。

(イコール式音楽研究所 代表)



SLOW LIFE 阿東(at)徳佐 with 山口七夕会

会員No.183 関 和貴

60歳を期に会社勤めを辞め、山口市に戻り旧阿東町徳佐で農業を始めました。今年で4年目になります。本日はその動機と経緯、徳佐での生活を七夕会とのかかわりの中でお話したいと思います。

1. 農業を始めようとした動機

私は昭和26年山口市にて生まれました。サラリーマンの家庭です。中学・高校と山口市で過ごし、農業とは縁のない生活でした。学生時代を京都で過ごし、会社勤めを始めました。以来50歳までに全国12ヶ所を転勤して歩きました。海岸や河川・砂防や農地・林野などの自然環境を尊重する土木技術工法の営業が仕事でしたから、全国の海岸線を見て歩きました。また、漁村や農村に宿泊することも多く、日本の自然環境の素晴らしさを感じておりました。

40歳の初めの頃、世の中はバブルの真っ盛りの時代。55歳からは自然の中で暮らしたいと思うようになりました。(当時、企業の定年は55でしたから。)海で暮らすか山で暮らすか？ それまでに生活資金を稼ごう。しっかり働こうと思いました。

また当時 LOHAS (Lifestyles Of Health And Sustainability) と言う言葉を知り、これが俺の生き方だと思うようになりました。当然ながら、家内は啞然としておりました。

2. 農業を始める経緯

50歳のころ、東京勤務の折に『七夕会』を知り加えていただくことになりました。紹介していただいたのは山本和生先輩。当時山本先輩は家庭菜園を楽しんでおられ、私も狭い庭を耕し、野菜づくりを始めることにしました。これが農の道への出発になったのです。

野菜作りが面白く、さらに勉強しようと通信教育を受けたりしておりました。『七夕会』で知り合いになった農水省に勤務しておられた、野村文昭先輩から埼玉県の有機農業者である金子美登氏を教えてくださいました。週末には頻繁に金子氏の元に通い農業の実践を教えてくださいました。

教えていただいたことは数多くあります。印象に残っている言葉は、『有機農業とは農薬や化学肥料を使わない栽培手法のことではない。食べ物は命の糧、命を育んでいくものですから、安全でおいしいものでなくてはなりません。そして食べ物をつくることで自然が破壊されてはなりません。だから有機農業をするということは、化学肥料や農薬を使わないということだけでなく、地球の環境を守ることまでも視野に入れた、生き方そのものになると思いますよ。』この言葉は衝撃的でした。当時、企業勤めで利益を追及することが企業人の役割だと考えていたことが、すっかり打ちのめされてしまいました。『企業も一緒にしよう。新しいものを開発する。営業する。それは人に貢献する。社会を豊かにする。その結果、評価していただいた利益を得ることでしょう。』と金子氏は言うておられました。

ある冬の寒い日、池が凍っておりました。金子氏曰く。『氷が解けたら何になります？』

私、『氷が解けたら水でしょう！』

金子氏、『農業者ならば、氷が解けたら春になると考えましょう。』思考回路の大らかさ。完全に脱帽です。

その後、60歳からは農業で暮らそうと決めました。非農家出身者が農業者となるハードルは、低くありません。農地の売買や貸借にしても、市または県の認定を受けなければなりません。『認定就農者制度』です。自治体にもよりますが、結構面倒な制度です。5ヶ年の事業計画的なもので策定し認定を受けなければなりません。若い人ならば歓迎されて、大目に見てくれるようですが、60歳近くなると厳しいようです。そこで、千葉県農業大学の実践研修課程で学ぶことにしました。59歳で会社を辞し、朝から夕まで座学と実践作業。同期30名位の中には同じ年代の人も5名位いました。3ヶ月後に『農業技術検定2級』に合格し、本格的に農業開始の準備を始めました。因みに、この『農業技術検定』制度は七夕会の野村先輩が農水省時代に確立された制度だと後に知りました。

当初は自宅のある千葉市近郊や、関東周辺などをのんびりと探しておりました。また、パソコンの技術も必要だと考え、パソコンスクールにも通っておりました。そんな中、あの 3.11 東北大震災が発生し、更に親の介護の問題が持ち上がったために山口に戻ることを決めた次第です。

3. 徳佐で農業を開始

山口県の東京事務所に、山口県内で農業を始めたいと相談に行ったところ山口県農林振興公社を紹介されました。公社の指導により、山口県内を廻り市役所の担当部署を尋ね就農について相談しました。60歳からの就農となると、家庭菜園程度しか考えていないと思われ、相手にされないところもありました。中には30～40歳でないと無理だと言われたところもあります。

そんな中で山口市は親身になって対応していただきました。住居・農地と言った組織横断的な対応をしていただき、徳佐・原山の旧開拓地で農業を開始することになりました。山口市の対応については本当に感謝しております。

4. 徳佐での生活

高校時代に徳佐から来ている友人に、『山口のチベットから来ている』と冗談で言うておりました。冬に山口が晴れていても、徳佐から来る友人は長靴を履いてきておりました。今徳佐に住んでみて、冬の素晴らしさ、夜空の星の美しさ。感激しております。仕事で何度か訪ねた軽井沢や蓼科や安曇野などの高原の観光地以上に自然も豊かです。

徳佐は寒いと言われておりますが、北海道で仕事をしていた頃の寒さに比べれば大したことはありません。山口市内の者が狭い判断で考えたことでしょう。春になれば花は一気に咲き出します。空気は澄み、水は綺麗でうまい。夏の日中は暑いけれど、夜は涼しくエアコンを使うことも余りありません。この自然条件の中で旨い『阿東米』が出来るのでしょう。この徳佐で5反(5,000 m²)の農地を借りて農業を開始しました。平成 24 年の 4 月です。今では田圃・畑・ビニールハウスを合わせて 1 町 8 反(18,000 m²)。

農業を開始した平成 24 年から、田圃の 1 画を七夕会の交流田として農薬や化学肥料に頼らな

い米作りをしております。(My 田圃で My Rice です。)七夕会山口支部(当時の名称)で農業愛好者を募り、地域の方々と交流を続けております。名付けて楽農部会。農作業の後のバーベキュー。収穫祭、芋煮会。ここでも酒は付き物です。やはり七夕会の伝統でしょう。

昨年度からは、法人会員の『村重酒造(銘酒・金冠黒松醸造元)』の御理解を得て、酒米(山田錦)の栽培を始めました。「山田錦プロジェクト」と称し、会員制で栽培した山田錦で酒を仕込んで貰う。(My Rice で My Sake Wine)酒の蒔蓄を語りながら、酒を楽しむ大人の集まりです。とは言っても田植えには子供たちも来てくれます。今年からは、福祉施設の子供たちや、地元の農家の人たちも応援に来てくれるようになりました。昨年の山田錦で仕込んでもらった純米大吟醸酒を、阿東地区の農家の人に試してもらったところ、絶賛されました。今年はいっと品質の良い山田錦を栽培するように、『阿東黒松応援団』と称して丁寧に栽培指導をいただいております。地域との連携も少しずつ広がっています。

5. 集落の人との交流

徳佐に来てまだ 5 年足らず。集落の人との交流も出来始めました。でも、まだ時間はかかると思います。集落の人との付き合いは

- 都会から来たのだと言う生活態度は嫌われる (東京では…大阪では…山口では…は禁句) ましてや (都会生活に疲れたから…は失礼)
- 田舎のために何かしてあげようは口に出さない (出来る訳がない)
- 集落の人達と質素に生活レベルを合わす (都会～都市から来た人はお金を持っていると思われがち) 現実には集落の人が財布も心も裕福です)
- 集落の‘しきたり’を教えて貰う (集落の人達は当然知っている物と思っている)
- 挨拶は確実に言う (大きな声で！ 更に帽子の活用)
- 集落の人は観察眼が鋭い (常に観察されていると覚悟する)

- お婆ちゃんの話否定せずに聞く（集落は母系社会が日常生活を決めている 女性性は長生き）
- 集落の人の好意には笑顔で感謝する（余計なお世話でも感謝してお礼する）
- 過去の栄光や地位は関係なく一集落民としていつも静かに笑って生活して行こう
このような心掛けで受け入れてもらおうと思っています。

6. 農業について考えること

農業を始めてまだ4年。いまだに黒字化は出来てはおりません。付き合いのある農家の方々も、農業で生計を立てている人は僅かです。大規模化や集落営農に路線を取った方々は、もっと苦しく、更に高齢化集団となりつつあります。また、大規模農業化したところの単位当たりの収穫量は年々落ちているとのこと。また、耕作方法を見ても効率化優先の気がします。単位面積当たりの収穫量は日本の農業の優れた点だと思っていました。1町歩あれば、子供たちに上級教育を受けさせられる。そんな思いで、昔の農家の方々は勤労を勤しんで来ました。

農村の人達は体の続く限り田や畑に出掛けます。彼らの体に染みついた勤勉性と、先祖からの土地を守ると言う責任感と、里山の景観を守ると言う使命感が伺えます。耕作放棄地が云々・・・と言われていますが、私の周りでは、それは食料難の頃の開拓地や開墾地で、本来は田畑になるような地域ではないようです。また、当時の米の1反当たりの収量はせいぜい5～6俵。現在では化学肥料や農薬の普及もあり8俵は収穫できます。条件の合わないところは、誰も耕作していません。（耕作放棄地と言うより、工作不適合地です。耕作放棄といえば、農民の懈怠や不作為と言うことでしょうか？）行政・政治、マスコミの方々も耕作放棄と言う用語は安易に使って欲しくないものです。

また、少子化も進んでいます。食べ物も多様化して参りました。自給率の数字も下がっていくでしょう。農家の人も和食の比率も落ちています。

『地方創生』や『強い農業』と言う言葉がありますが、行政用語や政治用語に留まってはならないと思い

ます。我国の農業はこれから大きく変わるかも知れませんが、変化すべきところは変化しなければなりません。ただ、農民は急ハンドルや急ブレーキは苦手です。

大規模化すれば効率的で利益が上がると言われていますが、その維持管理と持続性は担保されているのでしょうか？

他の国に見られない生産性のある耕作地もなくなるかも知れません。市場原理で末端価格が安いものが売れる時代は何時まで続くのでしょうか？

品質の良い物は廃れて行くのでしょうか？皆様の幼少期の原風景の中にある『里山』は荒地になるかも知れません？否定的なこと、不安を煽ることを申し上げて参りましたが日本の農民は、決して負けることはないと思います。

『地方創生』や『強い農業』にしても、中央からの指示待ちでなく、地方からの将来構想を提案して行くことが大切だと思います。中央の有識者の意見も必要でしょうが、地方に生活している者の現実を理解して欲しいものです。

イソップ物語の『街のネズミ』と『田舎のネズミ』の話を思い出します。中山間地や里山を切り捨てて欲しくないと思います。山口の中山間地に移り住んで、まだ5年足らず。田の畦に座って、ふと思うことです。

山口にお帰りになることがありましたら、阿東徳佐に遊びにお越し下さい。

本日は私の拙い話をご清聴いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

（平成 27 年度山口七夕会定時総会/講演録より）



みすゞと共に 25 年 ～金子みすゞの詩世界を語り続けて～

会 員 No. 136 ^{こぐち}小口 ゆい

2015年5月30日、紀尾井小ホールにて『みすゞと共に25年～みすゞ with ゆい～』を上演しました。2008年から英語表現の指導をしてくださっているO氏の「常にジャンプするしかないでしょ！」という言葉に背中を押され、自分の既成概念を壊し、ことばの持つ力を信じてチャレンジして来ました。今回、みすゞの言霊が助けてくれたのか、ようやく一つ吹っ切れたものがありました。体が軽く、劇場の空間を「ことば」が飛んでいました。終演後、楽屋で新聞取材を受けている最中に地震に遭いました。免震構造の為に5階のホールはとても大きな横揺れでいつ終わるかという不安が過りましたが、公演中でなくてホッとしました。忘れられない25年の節目となりました。

そもそも私の朗読の原点は、20歳で参加した舞台朗読の先駆者・山本安英さんの稽古場で開かれていた『ことばの勉強会』です。毎回各分野からの講師を囲み、100人程の人が熱い想いをぶつけていました。私もその中の一人でした。今でも座右の書として本棚に鎮座している、山本安英の会編『日本語の発見』の後記に「日本語そのものの表現力を発展させて行くための役に立つものになりたい…」と記してあります。『ことばの勉強会』での出会いから詩の群読舞台公演に初参加し、からだを通したことばの響きに震えました。

1990年12月1日、四ッ谷のライブハウスでの朗読公演後、テレビ局のディレクターY氏から「こんな人知ってる？」と、分厚いコピーを受け取りました。『金子みすゞ全集』の解説書く金子みすゞノート>でした。読み始め、全身に電流が走りました。子供時代の風景が鮮明に甦り、土や風の匂いの中に一体となっている私が現れたので

す。小学生の頃からお芝居ごっこが大好きで、学校の行き帰りは、ひとりでストーリーを考え友達に役を振分け30～40分ごっこ遊びをしていました。方便山をながめながら、電線に停まっている雀をみながら、歌を作って登校していました。その頃の私にタイムスリップさせてくれたのが、みすゞの詩世界でした。

金子みすゞに出会って、心に一本の木を植えました。みすゞの詩世界を語り続け25年、風雨に曝され、弱い苗木も少し逞しくなりました。盲学校の子供たち、自閉症の青年、難聴の男性、重度の障害を持ちながらパワフルに生きている音楽家、躁鬱病の友人など、みすゞの詩に耳を傾ける多くの人々とことばのキャッチボールをしてきました。私にとってみすゞは、母になり、友になり、いつしか立ち寄る港になっていました。

バブル崩壊から共生の時代と言われるようになり、みすゞの公演依頼と共に、ワークショップの依頼も増えました。「足の裏全体でまずしっかり立って！あなたはあなたでしかないのよ！」と歪んだ姿勢を直し、真っ直ぐに、地球を感じて声を出してもらうのですが、ある人形劇団でのワークショップでの事です。前髪が目の上迄かぶさって、キチンと立つことさえ面倒くさそうだった青年が、三日目に前髪をバッサリ切って、明るい表情で楽しそうに声を出していました。

2011年度から、少年院・少女院で慰問特別講座を持たせていただくようになりました。『童心は真心なり 罪は一時の病 人には何かひとつふたつすぐれた点がある…』と、吉田松陰は唱えています。誰もが、自己を認めて欲しい・他者に自分の存在を認めて欲しいはずです。照れず、諦めず、

自分のところに素直に、そのところを言葉に出す習慣を身につけて、何かひとつ自信を持って欲しいと願って、みすゞの詩も語っています。

寝ている文字を起こして生きた言葉として、届ける相手にゆっくり弧を描くように投げかける。相手の目線に立って声を出してみる。からだの解放です。生きている事の実感です。

東日本大震災は、瞬時に全てを根こそぎ奪い取ってしまいました。喪失、不安、絶望、生きて行く気力さえ無くし、言葉を失いそうになりました。

だからこそ、これから先も、みすゞの詩に自分の心をあずけて語り続けて行きたいと思います。魚、鳥、草、海、そして私たちも、みんな同じ命だと詩ったみすゞ。見

えないものでもあるんだよと詩ったみすゞ。気づかぬものに気づかせてくれるみすゞ。誰もが持っている素直な心を思い出させてくれるみすゞ。

感受性豊かな若い芽を、強くしなやかに育てて行ける社会を望んで止みません。私たちは地球という星に住むかけがえの無い命なのです。

地球はひとつ、そして、あなたも、私も、One and Only!!

ことばの力を感じ、信じて、2020年の東京オリンピックに向けて、海外からのお客様さまにひとつの日本文化として、みすゞの詩を日本語、英語で表現して聞いて頂けたらとも思っております。



(2015年 5 月30日 紀尾井ホールにて 撮影：松口伸)

「今の私 ー膨張する山口の絆ー」

会員No.579 梶山 俊哉

日本に新たなレガシーの誕生が期待される東京オリンピック・パラリンピック 2020 年。これに先立つ 2018 年は、明治に改元されて 150 年、明治維新 150 年祭の年にあたります。その節目の年を前祝うかのように、今年、NHK では大河ドラマ「花燃ゆ」が放映され、レノファ山口は J3 に昇格して快進撃を続けています。明治日本の産業革命遺産の世界文化遺産登録も待たれるところです。

一方、山口県東京事務所は新たに山口県営業本部と名を改めるなど、日本の地域創生をリードする「活力みなぎる山口県」の実現を目指し、東京での活動を活発化させています。その一環として、2014 年秋には「東京山口ウィーク」が開催され、山口県関係者のみならず、多くの参加者で賑わいました。私が参加したのは「長州幕末ウォークラリー」。日比谷を出発点に品川弥二郎像や大村益次郎像など、長州ゆかりのスポットを巡り、長州藩上屋敷跡でゴールしました。

出発前には幕末コスプレ大賞が選定され、毛利家の鎧甲冑姿(山口の申神会員のお手製だそうです。)で登場された山口七夕会の山縣幹事長が、見事第三位に輝かれました。



因みに私の手元には「東京の中の防長」という小冊子があります。これは 1996 年から 1997 年にかけて山口新聞紙上に 35 回にわたって掲載された記事を、1998 年に県の広報課が小冊子としてまとめたものです。「長州幕末ウォークラリー」で訪問した偉人の像や吉田松陰先生ゆかりの地が紹介されており、維新 150 年祭までには、すべての「東京の中の防長」を尋ねてみたいと思っています。

さて、近代日本の基礎を創った明治維新。その 150 年祭を、国を挙げて祝うための鍵となるのは、山口県関係者の絆です。山口七夕会はもちろん、現在東京近郊では様々な山口県同郷会や同窓会が活動しています。そして山口県東京営業本部では、「山口県応援隊東京本部」を組織し、各団体の活動の情報共有を図り、情報発信を支援しています。

私は山口大学教育学部附属山口中学校を昭和 1977 年に卒業しました。数年前からは関東近郊在住の同学年の卒業生と、年に一度の同窓会で旧交を温めています。

去年は上下 2 年の先輩後輩にも声をかけ、懐かしいメンバーが時空を越えて集いました。山口七夕会に参加するようになり、同郷の縁、絆はさらに大きな輪へと広がっています。私も 50 代半ばに差し掛かり、来し方を振り返る余裕も出てきました。幼い頃の縁と向き合う楽しさも分かってきました。私の中の防長が、今まさに膨張を続けています。



「今の私」 遺伝子ビジネス始めました

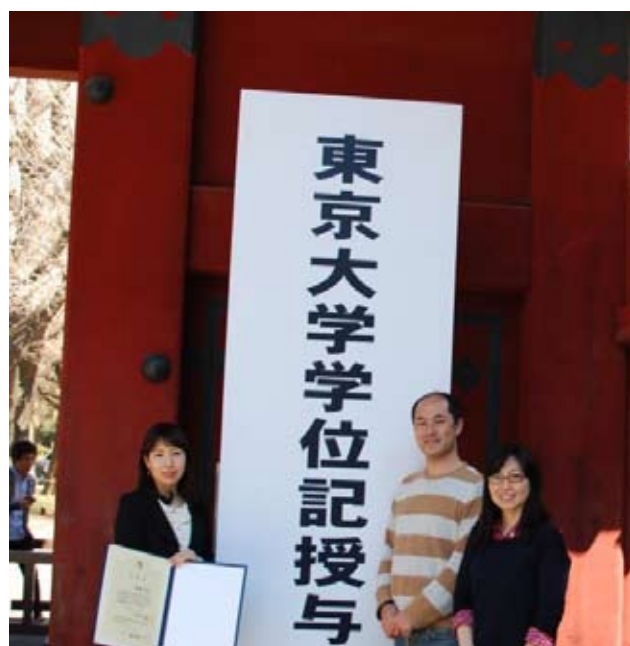
会員No.491 岡本 暁彦

2011年から2014年まで山口大学時間学研究所の特任助教に採用され、遺伝学研究所の研究経験を活かして体内時計を作る時計遺伝子研究、特に体毛から個人の体内時計を推定する方法について研究させていただきました。2014年に民主党政権時代の補正予算が終了し、山口大学での研究生生活も一区切りしました。その後は山口大学が保有する研究シーズ(自身の研究成果を含む)や山口県内の資源を活用した起業を考えていました。しかし山口で創業や助成金の相談をしても遺伝子ビジネス自体をなかなか理解してもらえず、山口で遺伝子ビジネスを行うのはまだ早いのかなと感じていたところ、同時期に東京大学発ベンチャー企業の株式会社ジーンクエストが遺伝子解析サービスを開始したことを知りました。私は山口で起業したい気持ちが強かったので色々悩みましたが、ご縁もあって2014年10月からジーンクエストで働くことになりました。

ジーンクエストは2013年6月、代表取締役の高橋祥子(写真左、筆者は真ん中)が東京大学大学院在学中に投資家から1億円の投資を受けて創業した会社です。ヤフー株式会社と提携して日本人を対象に大規模遺伝子サービスを行っており、申込者は唾液を送付すると自身の体質や健康リスクに関する遺伝情報解析結果を知ることができます。サービス開始以後、これまでに日本人1万人以上の遺伝子解析が終了しています。さらにサービス申込者には任意で遺伝情報を研究やビジネスに活用することの同意を取っており、遺伝情報がより多く集まると解析結果の精度が向上する仕組みになっています。遺伝情報が蓄積されビッグデータ解析を行ったり、人工知能と融合させることで、将来的には個人差に基づくオーダーメイド医療や遺伝情報に基づく新規創薬ビジネスの開発に繋がったりすると期待されています。私のジーンクエストで

の仕事は主に研究開発(遺伝情報データベースの構築、研究開発)ですが、人手が少ないこともあって、他に営業や総務(オフィスの引っ越し先探しや契約、サービス同意書作成、倫理審査委員会取りまとめなど)、人事採用など、何でも屋のような感じで働いています。おかげでスタートアップの良い勉強になっています(笑)。遺伝子検査ビジネスには国内ではDeNAが参入し、海外では23andMe(Googleの社長の奥さんが作った会社)が既に100万人の遺伝情報を集まったとの報告もあり、経済産業省や厚生労働省とも一緒に規制づくりを行うなど遺伝子ビジネス業界は騒がしくなっています。私個人は日本人の遺伝情報が国外に流出していくことは避けなければならないと考えており、日本人の遺伝情報は日本人に還元されるべきだと考えています。今後も国民の方々のから厳しくも暖かい視線を受けながら、微力ながら遺伝子ビジネスの発展に貢献していきたいと考えています。

将来的はまたいつか山口に戻り、山口大学の研究シーズや山口県由来の資源を用いて、山口で事業を成功させたいと考えています。その際には山口七夕会の皆様からもご応援いただけますと大変幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



平成 27 年度定時総会・議案第 3 号より

～継続は力！みなさんが主役です！～
「チャレンジプラン 2015 to 2020」

1. 「ふるさと納税」の推進と財政基盤の確立！

2. 会員の拡大と組織の充実！

- ・東京、山口本部
- ・若人の会（東京本部）
- ・学生会員

3. 「祭り」で交流、全国からアジアへ！

- ・レノファ山口を全国で応援！＝七夕女子！
- ・中原中也、山頭火など文学、歴史資源
- ・山口ちょうちん祭り、世田谷区民祭り、幕末維新祭り（松陰神社）、東北六魂祭など

4. 具体的な 2020 年の数値と事業目標

- ① 会員数：500 名、法人会員数：20 社
- ② 「ふるさと納税」：50 件
- ③ 発見！山口市!! (21 の地域協議会)
 - ・旧市域＝明治維新策源地の地
明治維新までの 5 年間、藩庁は山口にあった！
 - ・阿知須＝きらら浜
 - ・秋穂＝車海老養殖発祥の地、正八幡宮
 - ・小郡＝山頭火
 - ・徳地＝重源上人
 - ・阿東＝蔵目喜銅山跡、常德寺庭園、静御前の墓所、アメノウズメノミコト碑
- ④ 明治産業革命遺産の世界遺産登録記念！「萩と萩往還の旅」
- ⑤ 「2020 おいでませ山口サミット」の開催！

＜会員数の推移＞

年 度	会員数(人)	山口
平成 21 年度	252	
平成 22 年度	244	
平成 23 年度	270	14
平成 24 年度	280	38 (支部設立)
平成 25 年度	326	80
平成 26 年度	354	109 (本部設立)
平成 27 年度	369	122

(平成 27 年 8 月 31 日現在)

＜山口七夕会役員名簿＞

(敬称略)

役職名	氏名	
会 長	八 木 重 二 郎	
副会長	石 田 順 康	
	武 内 衛 子	
幹事長	山 縣 正 彦	
幹 事	平 林 英 昭	
	山 仲 秀 子	
	大 嶋 愛 子	
	渡 邊 史 信	
	竹 重 高 志	
	吉 松 勇	
	梶 山 俊 哉	(新任)
	杉 山 茂	(新任)
	濱 野 文 彦	(新任)
監 事	岡 本 暁 彦	(新任)
	奥 原 光 一 朗	(新任)
	曾 我 徳 将	
顧 問	原 早 苗	
	原 野 和 夫	
	山 本 和 生	
	村 田 太	

＜東京本部役員＞

役職	氏名	担当
本部長	梶山 俊哉	幹事兼任
副本部長	杉山 茂	幹事兼任
事務局長	岡本 暁彦	幹事兼任
事務局	大嶋 愛子	幹事兼任
	田原 貴美子	
	大田 宗	
	伊藤 晋	
	奥原 光一朗	幹事兼任
監事	引頭 和江	会計担当
	大枝 幹夫	

(平成 27 年 8 月 31 日現在)

【編集後記】

「会報 山口七夕会」第 2 号を発行しました。今回は、多くの会員の方から貴重な経験や「今の私」についてご寄稿をいただきありがとうございました。年々一回の発行をめざしてまいりますので、会員の皆様からのご寄稿をお待ちしております。

会報編集委員会 委員長(副会長) 武内衛子